



徳嶺勝信

今回は改めて、なぜベトナムが世界中の諸外国から注目され、企業進出が活発なのかをお伝えいたします。

ベトナムは「資源大国」です。よくメコン川を中心としたデルタ地帯のイメージで農業を連想されることがありますが、農業以外にも天然資源が豊富です。例えば、鉄鋼資源、エネルギー資源、森林資源、水産資源、水資源などがあります。特にエネルギー資源や鉄鉱資源が豊富なため、海外のエネルギー大手企業が施設を建設し、資源の探鉱を行っています。

日系では出光興産が合弁事業を立ち上げ、現地で製油所を建設し、石油製品を生産しています。ちなみにベトナムの石油製品の輸出順位は世界26位。少し勢いは止まってきましたが、世界中のさまざまなIT企業がベトナムを「オフショア開発(ソウトウエア開発等)」の拠点として海外委託・発注先として進出しています。

水産資源においても、南シナ海に面した漁場とメコン川流域が

豊富な資源 成長に期待

ベトナム

ら、川と海の水産物が捕れ、養殖に適した条件もそろっています。沖縄から持ち込まれたといわれている、海ぶどうの養殖もやっています。水資源では、メコン川流域に位置する多くの支流と地下水が豊富で、ベトナム全体の発電量の中でも水力発電が40%以上を占めています。

農業分野でも、近年ではコーヒー豆がブラジルに続く世界2位の輸出大国になっています。カシューナッツとコシヨウは、10年以上輸出世界一をキープしており、米が世界3位と、農業分野でも世界上位の水産で推移しています。

ベトナムの魅力はこのようにいろいろな資源をもとにした事業化や、それに伴う物流やサービス、インフラ整備を求めてさまざまな企業がベトナムに進出しています。また、平均年齢が30歳と若く、若年層の人口が多く労働人口が多いこと、人件費が上昇している中国に比べ雇用コストを安く抑えられることもあり、近年は特に中国からの外資企業の工場や事業所の移転も相次いでいます。

そのことにより、ベトナムでの雇用が増え、賃金上昇による個人消費の拡大につながり、内需を狙ったサービス業など、さらなる経済成長が期待されています。

(VINACOMPASS代表)

今回は、県ソウル事務所の平安常幸所長です。